

大雪山の素顔

だいせつざんのすがお

このコーナーでは、山岳ガイド、旭岳ピジターセンター、自然解説員など旭岳で活躍する人たちをリレーして、季節とともに変化する旭岳の旬のお便りをお届けします。

高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」と言われる大雪山の素顔が見えてくることでしょう。



フクジュソウ

春のキトウシ山で会いましょう！

皆さん、春のキトウシ山へ行ったことがありますか？もし、行ったことがなければ、さっそく明日にでも行ってみませんか？友達や家族を誘って、または、一人でぶらりと。「こんな素敵な場所が近くにあるなんて！」と、また行きたくなくなってしまふこと、マチガイナシ！

4月とはいえ、キトウシ山には残雪があり、風の強い時、雪の降る時は、冬のように寒くなることもあります。しかし、そんな中でも、雪解けは驚くほどの早さで確実に進んでいます。そして、雪解けと共に現れてくるたくさんの新芽を発見できます。「何の芽だろう？」と、はじめは何者かわからなかったその芽達は、日々形を変えながら大きくなり、やがて蕾になり、そして花を咲かせ、正体を明かしてくれます。

鮮やかで元気いっぱいの黄色の「フクジュソウ」。青のグラデーションが美しい「エゾエンゴサク」。頭を下げつつましく咲く桃色の「カタクリ」。シンプルでかわいらしい小さな花をつける黄色の「ナニワズ」などなど...

キトウシ山の森は花の宝庫です。4月中旬の晴れた日には、満開になっているたくさんのお花たちに出会えることでしょう。そして、森の静けさの中、耳を澄ませば、鳥たちのさえずり。もしかしたら、シマリスやエゾリスにも出会えるかもしれません。花、鳥、動物達も春の訪れを喜んでいるようです。そんな春のキトウシ山の森歩きは体にも心にも気持ちよく、あっという間に時間が流れていきます。スケッチをしたり、ポーっとしたり、ブラブラ歩いたり、春の陽気を感じながら、自分なりの時間を楽しみましょう。それでは、皆さん、春のキトウシ山で会いましょう！

(お願い：花たちは、群生になって咲いています。踏みつけないように気をつけながら歩きましょうね。)

文：青木倫子（旭岳パークレンジャー） / 写真：松野智久

短歌

足もとに全身の力うちこめて路面の氷りに逆らひ歩む

復路無き人生航路は一人旅終着駅はもし先か

平凡を磨いて生きなむ小さくともしかと地に建ち雨しのぐ家に

七十路も終りに近き坂のぼる二人三脚風花が舞う

昨日とは打って違ってこの吹雪数台の車で除雪したるに

白雪崩日毎高さを増してゆくはなれて久し故郷徳ぶ

若き日に憧れつつけたあの曲が流れきたれば目を閉じて聴く

今年の冬將軍は頑固にて吾は縮こまり春を待ちおり

降りつつく二月の雪に埋すもれて幾年ぶりのひいな並べる

知る人もなきこの地にて早四十年過去を思えど時は帰らじ

思ほえは父母の齢をとうに越ゆないものねだりの日々を重ねる

そんなことあんなことなど覚えてる覚えておない雪が降ってる

九十を越しても享けし命なら楽しく生きよつ今日も歌よむ

めぐる度五輪聖火の態変る出場選手の熱き心を

俳句

春あらし岐登牛の山ゆりおこす

雛飾る亡母にも娘にも流れる血

説教の味かみしめる釈迦団子

入学の背にまだ堅きランドセル

括り菜の春の息吹を伝え来る

種時けば笑顔の雲のお出迎え

鳩胸の種子時く農婦の息つかい

野良衣着てふだんの心で種下す

跡取りの所作も鯨背に種下す

この大地一等席にと種下す

種おろす微かに残る陽の匂い

わが余命幾星霜ぞ種おろす

宮坂紫雲	小林露葉	澤田久美子	石澤清宏	杉山りつ	徳光吐苦	青野公花	秋山深雪	松山蓉子	杉山ひろのり	山口佐知子	石川ヤエ	那須喜美	松倉和子	瓜生昭枝	永江栄子	岩田ふじえ	嶋崎ミエ	笹田富士子	岡澤チズ子	宮坂敬子	清水敬子	中田治子	井山一文	尾池真沙子	矢沢ますえ
------	------	-------	------	------	------	------	------	------	--------	-------	------	------	------	------	------	-------	------	-------	-------	------	------	------	------	-------	-------